

兵庫県立健康科学研究所

健科研リポート

Vol. 19

2018.12

Report of the Hyogo Prefectural Institute of Public Health Science



兵庫県感染症情報センターは、兵庫県立健康科学研究所の感染症部に設置されており、県内で発生している感染症の情報を収集・解析し、週報や月報、ホームページなどで情報発信しています。

今回のリポートでは、インフルエンザに関する情報をお伝えしながら、兵庫県感染症情報センター業務の一端をご紹介します。

1 患者発生状況の発信

インフルエンザなどの定点把握対象疾患と呼ばれる感染症は、法律等に基づき、予め指定された医療機関（患者定点）から、患者数が報告されます。

インフルエンザについては、毎週、県内 199 か所の患者定点から、一週間の受診患者数が健康福祉事務所（保健所）に報告されます。これを集計して、定点あたりの患者報告数の週ごとの変化を過去のデータと一緒に示して、流行の開始時期や流行の規模の比較ができるようにしています（図 1）。表 1 には、国立感染症研究所が定めた流行等の基準を示しました。

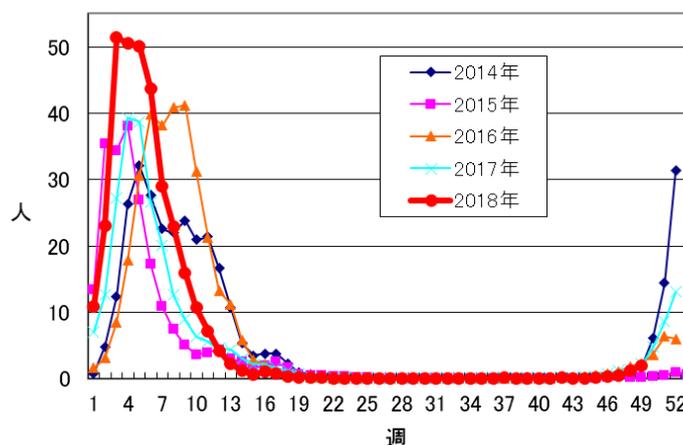


図 1 インフルエンザの週別定点あたり患者数の推移

表 1 流行等の基準（インフルエンザ）

	定点あたり 患者報告数	終息の条件
流行期入り	1人以上	流行終息1人未満
注意報レベル	10人以上	警戒終息10人未満
警戒レベル	30人以上	

また、各地域の流行状況を、その地域の過去 5 年間の流行状況と比較したものが図 2 です。1 週間あたりの患者数が過去 5 年間のデータの下からどれぐらいになるかを 50、80、90、98 パーセントイル値 ※を基準に、色分けして表示しています。

※データを下から順に並べて、何%の位置にあるかを示す値

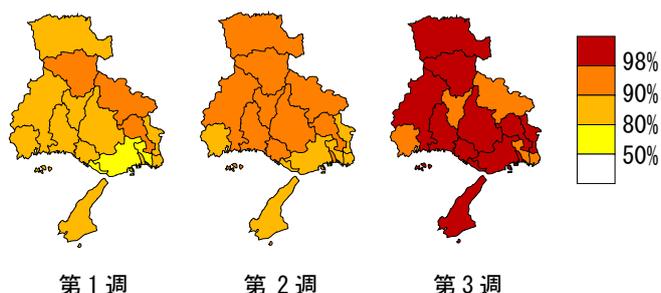


図 2 地域別インフルエンザ流行状況の推移 (2018 年)

週報では、図 1、図 2 以外に、地域別、年齢階級別の患者数の特徴も記載するほか、ホームページでは、性・年齢階級別や地域別の患者数集計表を掲載しています。

<http://www.hyogo-iphes.jp/kansen/infectdis/Wreport.html>

さらに、県内で病床を 300 床以上有する病院のうち基幹定点と指定された 14 か所から、インフルエンザによる入院患者数が毎週報告されます。インフルエンザウイルスの病原性の変化等を把握するため、重症度の高い患者の発生動向を調査しているもので、年齢階級別患者数に加えて、集中治療室、人工呼吸器、頭部 CT 検査等の利用状況も集計し、週報で発信しています。

2 学級閉鎖等の発生状況の発信

感染症情報センターでは、学校や公益財団法人日本学校保健会等の協力を得て、毎朝、兵庫県内の学校等の前日の臨時休業情報を入手し、速報を兵庫県感染症情報センターのホームページ内にある兵庫県インフルエンザ情報センターのサイトに掲載しています。

<http://www.hyogo-iphes.jp/kansen/influ/index.html>

臨時休業中の施設名の一覧表に加えて、患者数の多い時期は罹患率の推移のグラフ (図 3) や市町別学級閉鎖マップ (図 4) も作成し、毎日更新しています。

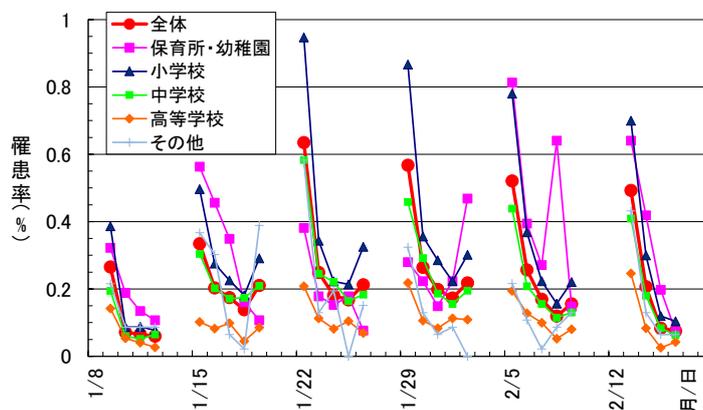


図 3 インフルエンザ様疾患の罹患率の推移 (2018 年)

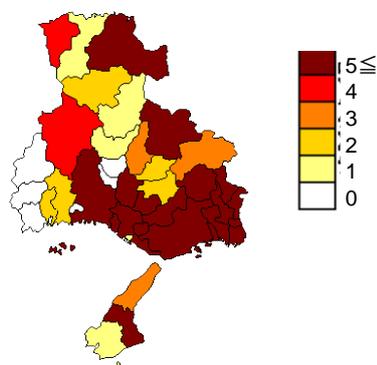


図 4 インフルエンザ様疾患による市町別学級閉鎖のクラス数

また、健康福祉事務所 (保健所) で確認された臨時休業情報を毎週集計して、二次医療圏域別、学校種別の休校、学年閉鎖、学級閉鎖の数を週報で発信するとともに、集計表をホームページに掲載しています。

<http://www.hyogo-iphes.jp/kansen/infectdis/InfluHeisa.html>

3 病原体検出情報の発信

県では、流行するインフルエンザウイルスの種類等を把握するため、県内 199 か所の患者定点から 21 か所を病原体定点として指定しています。流行期には受診された患者さんのなかから毎週 1 検体、非流行期には毎月 1 検体を当研究所に提出いただいています。

感染症情報センターでは、感染症部で検出されたウイルスの種類等を週報で随時発信するとともに、月ごとに検出された病原体の集計表を月報やホームページに掲載しています。

<http://www.hyogo-iphes.jp/kansen/infectdis/Hiasr.html>

昨シーズン（2017-2018 年）の特徴

B 型山形系統と AH3 亜型の流行時期が重なり、全流行期間を通じて混合流行が見られました（図 5）。また、ウイルスの型別検出割合を図 6 に示しました。

AH1pdm09 型について、37 株中 2 株がタミフルなどの抗インフルエンザウイルス薬に対して、薬剤耐性株でした。

感染症の流行状況をホームページで発信しています。

<http://www.hyogo-iphes.jp/kansen/infectdis.htm>

又は クリック

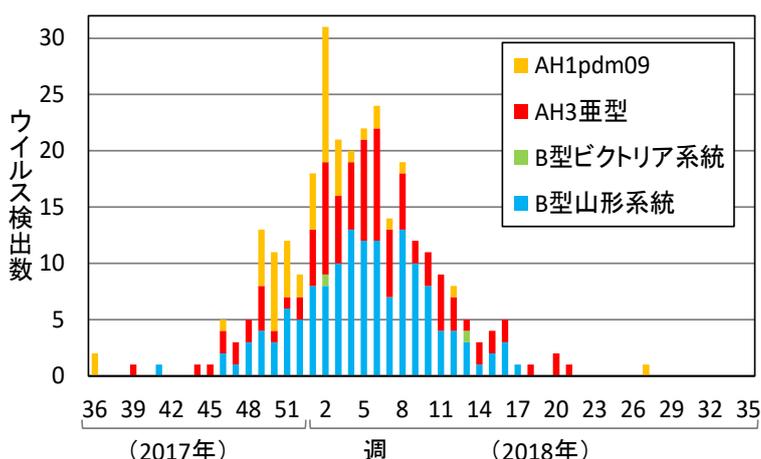


図 5 インフルエンザウイルスの週別検出状況 (2017-2018 年)

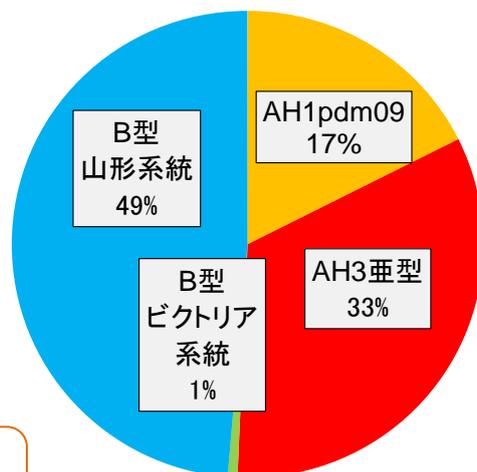


図 6 インフルエンザウイルスの型別検出割合 (2017-2018 年)

☆ 当研究所のインフルエンザに関する検査・研究は、国立感染症研究所が行う次シーズンのワクチン株の選定等に役立っています。

(感染症部 秋山由美、松尾美也子、押部智宏、稲田忠明)

インフルエンザを予防するために

インフルエンザの流行状況を当研究所のホームページなどで確認し、流行が本格化する前に、ワクチン接種を済ませておくことをお勧めします。また、予防するためには、外出後の手洗い、人混みを避けるなどの対策も有効です。インフルエンザの感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケットを徹底し、不要不急な外出は避け、早めに医療機関を受診しましょう。

TOPICS 健康危機に備える！模擬訓練 2018

10月17日に、地方衛生研究所全国協議会近畿支部疫学情報部会（事務局：奈良県保健研究センター）主催の、「健康危機事象模擬訓練」に参加しました。

この模擬訓練は、感染症や食中毒などの健康危機が発生した際に、患者らの症状等から原因物質等の探索を行い、参加機関が危機管理対応の点検・確認等を行うことを目的としています。

過去の訓練では、農薬の混入したカレーやミネラルウォーター、植物性自然毒の混入したみそ汁、寄生虫に汚染された馬肉等の模擬事象がありました。実際の訓練では、配布された模擬シナリオの患者発生状況から原因物質を推測し、原因物質不明のサンプルを用いて、さまざまな検査を行います。

今年度は下痢、嘔吐の症状を呈した集団食中毒という設定で行われました。当研究所では、食中毒症状等から原因物質を推測し、新たに整備されたトリプル四重極型高速液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）を用いて、中毒原因物質（下痢性貝毒）を確定し、有毒成分の定量を行うことができました。今後も、模擬訓練等を通じて職員の技術向上を図り、県民の健康危機に備えていきます。

（健康科学部 吉岡直樹）



模擬訓練での検討会の様子

information

設立 70 周年記念シンポジウムを開催しました

11月16日、当研究所設立70周年記念事業としてシンポジウムを開催し、川崎市健康安全研究所の三崎貴子先生、国立感染症研究所の大西真先生及び山口県環境保健センターの調恒明先生から腸管出血性大腸菌に関するご講演いただきました。当日は、約70名の方にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。

今後とも、ご支援、ご協力をお願いします。



編集・発行

兵庫県立健康科学研究所

〒675-0003 兵庫県加古川市神野町神野 1819 番地の 14

TEL : 079-440-9090 FAX : 079-438-5570

E-Mail : webmaster@hyogo-iphes.jp URL : <http://www.hyogo-iphes.jp>

